コカ袋〈チュスパ〉

A0209
クスコ／ペルー

アンデスの玉手箱ーペルー南高地の祭りと生活

参照資料

図録『アンデス文明』p.149、p.150

ビデオ「1351 アンデス高地の農耕と牧畜」

『国立民族学博物館展示ガイド』p.17

フィールドノート「コカを売っている場面」

CHUSPA

コカの葉を入れる袋。村や地域により装飾が異なり、男性が用います。コカの葉は先スペイン期から儀礼に用いられ、石灰や灰とともに口にすることで、アルカロイドやビタミンが抽出される効果が注目されてきました。今日では、農作業や旅の疲れをいやすための嗜好品としても使われています。

關先生からのひとこと

コカは、コカインという麻薬の原料です。しかし、一枚一枚の葉に含まれる幻覚成分はとても少なく、設備の整った工場で精製しないと麻薬にはなりません。だから口に入れて噛むのは、チューインガムを噛むようなものです。
このコカ袋は男性だけが使います。ふつうは肩からかけますが、腰につけることもあります。女性は小さなハンカチ大の織物に包みます。織物の両端には、ひもがついていて、しっかりとくるむことができます。